

# 第1学年 生活科学習指導案

平成29年12月1日(金) 第5校時

場 所 教室

## 1 単元名「つくろう あそぼう」～あきまつりをしよう～

### 2 単元について

#### (1) 児童の実態について

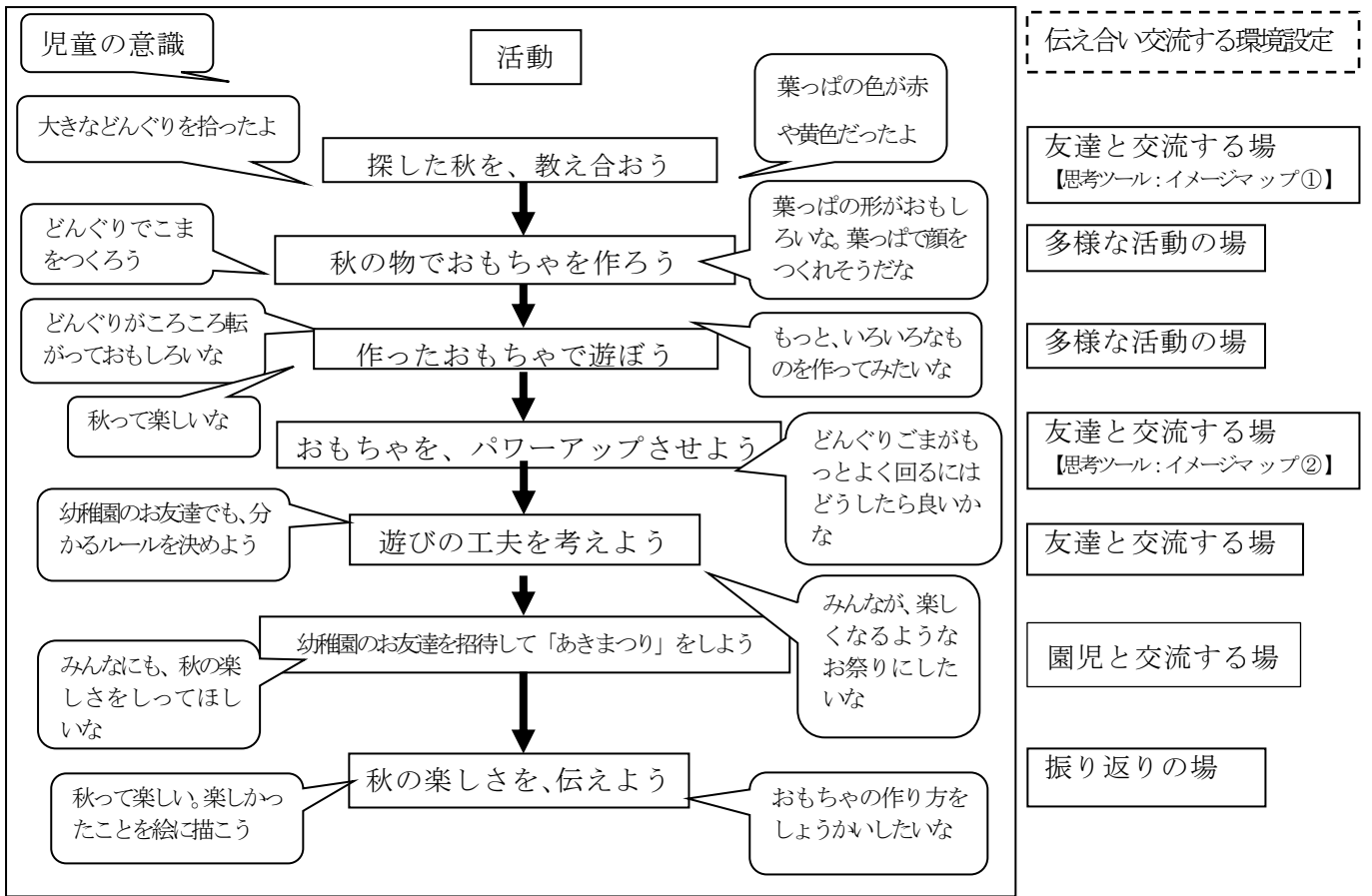
本学級の児童は、1学期の「きれいに さいてね」の学習でアサガオを育ててきた。大きく、きれいな花を咲かせるためには、毎日水やりを忘れずに行ったり、愛情をこめて育てたりすることが大切だということに気付き、成長を楽しみにしながら育てることができた。また、アサガオの成長を観察し、観察カードにまとめる活動を通して、アサガオの成長の様子や、友達のアサガオとの違いに気付くことができた。そして、「なつだ あそぼう」では、夏の遊びについて考え、校庭や校外にある公園に遊びに行き、自然の中で遊ぶ楽しさを実感することができた。隣接している幼稚園との交流活動も積極的に行い、1学期にはサツマイモの苗植えとシャボン玉遊びを一緒に行った。2学期には、サツマイモ掘りや、茶巾づくりを行った。

これらの活動を通し、自然で遊ぶ楽しさに触れ、気付いたことを観察カードなどに自分の言葉で記録し、自然を愛する心情を育てることができた。しかし、発見した「気付き」や「楽しさ」を友達と共有し、お互いの考えを比べたり関連づけたりすること、自分の考えを広めたり深めたりすることを苦手と感じている児童もいる。

#### (2) 単元設定の趣旨と構成上の配慮

本単元は学習指導要領(5)「季節の変化と生活」や(6)「自然や物を使った遊び」、(8)「生活や出来事の交流」の内容を受け、児童が四季の変化を体全体で感じながら、自然物を使ったおもちゃを工夫して作ることを通して、自然物でおもちゃを作る面白さや自然の不思議さ、安全に気をつけてみんなで遊びを楽しむことをねらいとしている。前単元の「たのしい あきいっぱい」では校庭や公園に秋を見つけに行き、夏との自然の違いに気付きながら遊ぶ体験をしている。本単元では、集めた秋の物(どんぐりやまつぼっくりなど)を使って、その特性を生かしながら様々なおもちゃ作りに取り組んでいく。作ったおもちゃは、自分たちだけでなく、幼稚園児にも紹介して、一緒に遊ぶ活動も取り入れていく。よりよいおもちゃが作れるように、友達と教え合ったり、話し合ったり、または実際に作成してみたりする等おもちゃを作る過程を大事にしながら、子どもたちの気付きを増やしていきたい。さらに、よりよいおもちゃを作るために試行錯誤する過程の中で、思考ツールを活用し、児童同士の話し合いや交流がさらに積極的にできるようにする。

### (3) 児童の意識の流れ



### 3 単元の目標

- ◎ 身近な自然物や身の回りにあるものを使って、おもちゃをつくったり遊び方を工夫したりして、遊びの面白さや自然の不思議さに気づき、安全に気を付けて、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

#### 4 評価規準

		ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ 身近な環境自分についての気持ち
単元 の評価規準		身近な自然物を使って、遊びに使うものをつくったり、遊んだりすることに関心をもち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。	自然物や身の回りにあるものを利用して、遊びに使うものを工夫して作ったり、みんなが楽しく遊べるように約束やルールを考えたりしながら、みんなで楽しく遊んでいる。	自然物を利用して遊んだり、遊びに使うものをつくったりすることの面白さや、自然の不思議さ、秋の自然物を使ってみんなで遊ぶことの楽しさに気付いている。
学習活動（小単元） における評価規準	1	① 自分たちで集めた秋の自然物に関心をもち、それらの特徴をいかしたおもちゃをつくろうとしている。	① 集めた自然物の中から、使ってみたいものを選び、試したり、見立てたりして、工夫しながらおもちゃを作っている。	① 集めた自然物の特徴や、自然を使って遊びを作り出す面白さに気付いている。
	2		② 実際に遊ぶ中で、みんなが楽しく遊べるように考え、遊びの約束やルールを工夫している。	② 遊びの約束やルールを工夫すると楽しく遊べることや、友達のおもちゃには自分とは違う良さがあることに気付いている。
	3	② 積極的に園児と関わり、一緒に遊ぼうとしている。	③ 相手が園児であることを考えて、おもちゃや遊びのルールを工夫している。	③ 自分たちが、園児たちを楽しませることができたことが分かり、自分自身の成長に気付いている。

#### 5 指導計画

時間	小単元名 ◎ねらい ○主な活動	小単元の評価規準との 関連	評価規準から想定した 具体的な子供の姿
4 (本時 4 / 4 時)	「あきのおもちゃをつくろう」 ◎秋の自然物を使って、おもちゃを工夫して作り、自分でおもちゃを作り出す面白さや、自然の不思議さに気付くことができるようにする。 ○秋の自然物を組み合わせて、自由に遊んでみる。 ○秋の自然物でおもちゃを作って遊んでみる。 ○作ったおもちゃで遊ぶ中で、さらによいおもちゃにするにはどうしたらよいか考える。	関－①  関－① 思－①  思－①  気－①	・木の実や、落ち葉などの秋の自然物を使って、飾りやおもちゃを作っている。 (行動、つぶやき、作品) ・作ったもので意欲的に遊んでいる。 (行動、つぶやき) ・自然物の特徴をいかして、飾りやおもちゃを作っている。 (行動、つぶやき、作品) ・1度作ったおもちゃを工夫して、さらによくしようとしている。 (つぶやき、作品) ・身近にあるもので、飾りやおもちゃを作ってあそべることに気付いている。 (行動、相互評価、作品)
3	「みんなであそぼう」 ◎作ったおもちゃで友達といっしょに遊びながら、もっと楽しく遊べるように、おもちゃや遊び方を工夫し、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。 ○園児とさらに楽しく遊ぶための遊び方を考える。 ○「あきまつり」の準備をする。	思－②  思－② 気－②	・園児やみんなのことを考え、遊び方の約束やルールを考えている。 (行動、発言) ・役割をもって「あきまつり」の準備をしている。(行動) ・みんなと遊ぶことの楽しさに気付いている。(行動、相互評価)

	○作ったもので遊んだり、友達とつくり方を教え合ったりする。		
2	「いっしょに あそぼう」 ◎自分が作ったおもちゃで園児と楽しく遊ぶ中で、園児のためにおもちゃや遊び方をさらに工夫したり、相手の喜びを実感したりすることで、人との関わりの楽しさが分かり、自分自身の成長に気付くことができるようにする。 ○「あきまつり」をする ○楽しかったことを振り返る	関－② 思－③ 気－③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児に自分から声をかけたり、遊び方を教えたりして、積極的に関わろうとしている。(行動、つぶやき)</li> <li>・園児に対して、声のかけ方や接し方を考えている。(行動、つぶやき)</li> <li>・「あきまつり」を振り返り、人と関わることの楽しさに気付いている。(発言、プリント、相互評価)</li> </ul>

## 6 本時の学習指導（4/9時）

### (1) 目標

作ったおもちゃをよりよいものにするにはどうしたらよいか考え、その考えを友達と伝え合いながら、実際におもちゃを改良したり遊び方を工夫したりすることができる。

### (2) 本時について

本時では、前時までに作成したそれぞれのおもちゃをよりよいものにするにはどうしたらよいか考えていく。友達と自分のおもちゃを比べたり、考えた工夫を試したりする活動を十分に取り入れ、おもちゃのパワーアップを目指していく。自分の考えや工夫を友達と共有したり深めたりするために、グループごとに思考ツール（イメージマップ）を活用していく。

### (3) 展開

児童の学習内容・意識	・指導上の留意点 ★評価（評価方法） ☆支援	準備	時間
1 前時でのおもちゃ作りを振り返る。 ・どんぐりごまを作りました。 ・まつぼっくりを使って、けん玉を作りました。 ・やじろべえをつくったけどうまくできませんでした。 ・どんぐりロケットがうまくとばなくて残念でした。 ・どんぐりとまつぼっくりでマラカスができました。	・前時に作ったおもちゃを手元に置いておき、実際のおもちゃを見ながら振り返っていくようにする。 ・前時のおもちゃ作りを振り返りながら、自分のおもちゃの良くできたところ、もっと工夫が必要なところを考えていくようにする。 ・同じおもちゃを作った人の中にも、上手にできた人とそうでない人がいることに気付かせる。 ☆なかなか発表できない児童も、他の児童の発表を聞いて、自分のおもちゃと比べられてみるように声かけをする。	・前時で作ったおもちゃ	5

<p>2 本時の活動のめあてをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">おもちゃをパワーアップ させよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のおもちゃだけではなく、友達と協力してみんなが工夫できるように協力するように話す。</li> <li>★よりよいおもちゃを作ろうとしている。</li> <li><b>関心・意欲・態度</b>（行動・発言）</li> </ul>		5
<p>3 おもちゃ作りの工夫を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんぐりの形で、こまの回り方が違うね。</li> <li>・まつぼっくりの大きさや糸の長さを変えてみよう。</li> <li>・やじろべえは何で、うまくバランスがとれないのかな。</li> <li>・どんぐりロケットの、テープの長さを変えてみよう。</li> <li>・マラカスの中に、木の実を入れると音が変わるね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じおもちゃを作る児童でグループを作り、意見が全員で共有できるようにする。</li> <li>・グループごとに、考えた工夫を書きこむ模造紙を用意し、お互いの意見が視覚的に分かるようにする。（思考ツール：イメージマップ）</li> <li>☆おもちゃを作ることに夢中になってしまう児童には、どんな工夫をしているかななどを質問し、模造紙（思考ツール）に書きこむように促す。</li> <li>★集めた自然物を使って、試したり、見立てたりして工夫しながらおもちゃを作っている。</li> <li><b>思考・表現</b>（行動、発言、思考ツール）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模造紙</li> <li>・材料</li> </ul>	30
<p>4 本時の活動を振り返り、次時の活動を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇ちゃんが教えてくれたからおもちゃがよくできました。</li> <li>・どんぐりの形を変えてみたら、こまがたくさん回るようになりました。</li> <li>・〇〇くんと、マラカスの音が違っておもしろかったです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな工夫をしたら、おもちゃがより良くなったのかを振り返らせる。</li> <li>・友達と一緒にやると、一人ではできなかったこともできたことに気付かせる。</li> <li>・前回よりもおもちゃが良くなったことに触れ、達成感や満足感を味わわせる。</li> <li>★友達のおもちゃのよさや、遊びにつかうものをつくる面白さに気付いている。</li> <li><b>気付き</b>（行動、発言）</li> <li>・次時は、友達のが作ったおもちゃでも遊んでみることを伝える。</li> </ul>		5

(4) 環境構成図

